

平成30年度 「国有林モニターアンケート (第1回)」 調査結果

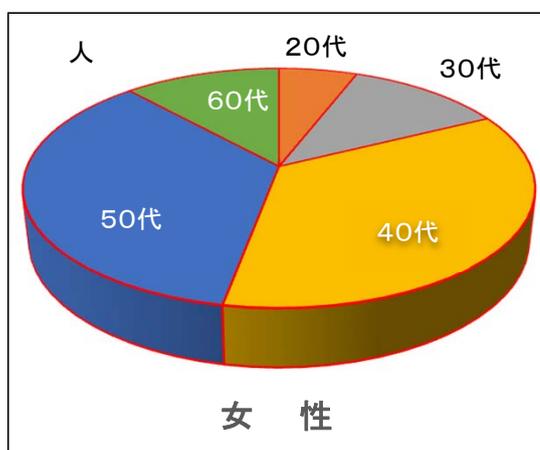
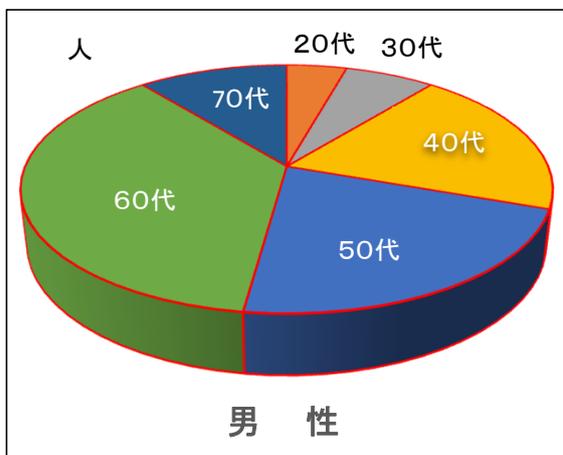
近畿中国森林管理局では、国有林モニターにご登録いただいている皆さまから、今後の国有林野の管理経営や広報活動の参考にさせていただくために、以下のアンケートにご協力いただきました。

今回は、5月に送付させていただきました近畿中国森林管理局版「平成30年度重点取組事項について」の内容を中心として設問を用意しましたが、いかがでしたでしょうか。

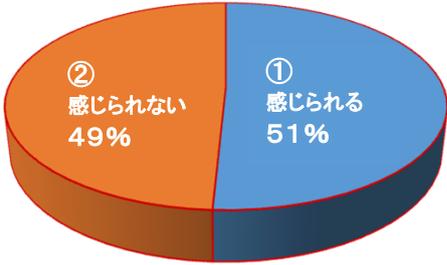
調査時期	平成30年7月		
調査方法	アンケート用紙の郵送による回答、ホームページフォームでの回答		
回収状況	アンケート依頼モニター数	68名	
	アンケートの回答	63名	
	アンケートの回答率	93%	

ご回答いただいたモニターの年代別構成 (人)

区分	男性	女性	計
10代	0	0	0
20代	2	1	3
30代	3	2	5
40代	9	6	15
50代	10	6	16
60代	17	2	19
70代	5	0	5
計	46	17	63



質問1	皆さまにとって国有林は、身近な存在として感じられますか。		
1	国有林は身近に感じられる	32	51%
2	国有林は身近に感じられない	31	49%
計		63	



① 感じられる 51%

② 感じられない 49%

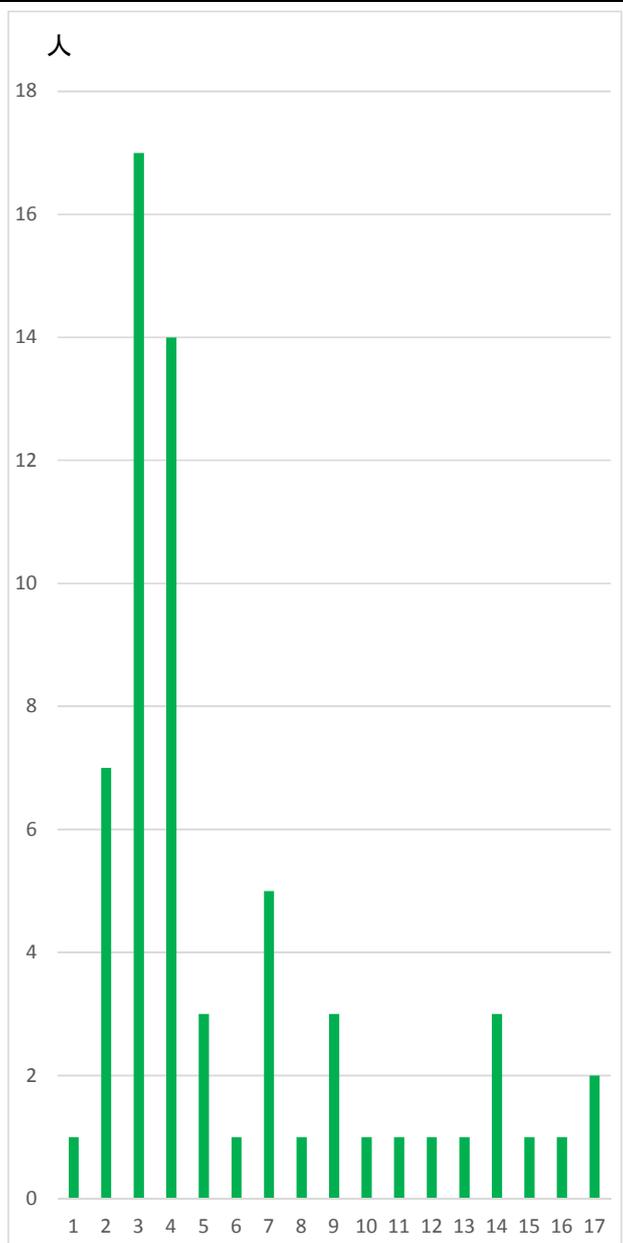
質問2	質問1で「国有林は身近に感じられる」とご回答された皆さまにお伺いします。そのように感じられた理由は何ですか。
<p>○山を守り、国土の保全、水源かん養等の役割を考えると身近に感じられる。</p> <p>○保健保安林、潮害防備保安林や水源かん養保安林に指定された森林が近くにあり、日常生活の中でその恩恵を受けているため。</p> <p>○モニターを通して、国有林の役割を理解したため。初めは国有林という単語の意味さえ分からなかった。</p> <p>○私が住んでいる京都府木津川市に隣接する町(京都府綴喜郡井手町)内の国有林は、同町を中心に土石流などにより大変な被害が発生した昭和28年の南山城水害を機に国が買い入れたもので、こうした国有林が身近にあるため。</p> <p>○地球温暖化や水害対策等、国有林の果たす役割が、今までよりもクローズアップされてきたから。</p> <p>○自宅からの徒歩圏内に国有林が存在するので。</p> <p>○昔仕事でしたが、国有林の払い下げを受け畜産団地を造成したことや20年前になるが、大杉谷を何度も訪れて登山道から国有林を見ていたため。又近年訪れた高取城跡付近が国有林と知ったことなどから。</p> <p>○自然災害が発生した場合民有林だけでなく国有林も被害を受ける可能性もあり、そういった場合、被害対策を含めそれなりに国民の税金が投入されるため他人事ではなく国有林を身近な存在として認識する必要があるから。また自然保護という観点からも重要な役割を担っているため。</p> <p>○身近な森で「国有林」の看板を目にする機会が多いため。</p> <p>○官民共同の森林環境教育で国有林とふれあう機会があったので身近に感じている。</p> <p>○森林セラピー等レクリエーション目的で日頃から利用しているため。</p>	

質問3	質問1で「国有林は身近に感じられない」とご回答された皆さまにお伺いします。国有林にどのようなイメージをお持ちですか。
<p>○森林の存在意義の重要性と思う。その多くの面積を占める国有林の重要性と思う。国有林について知れば、都市部のすぐ近くにもあるのがわかると思う。</p> <p>○山奥にある、普段は目にする事のない森。</p> <p>○一般的に、国有林は標高の高い奥地に存在しており、登山者や林業関係者でなければ、現地へ出向くことは難しい。水源のかん養等国有林の効用を積極的に広報していく工夫が大切ではないか。</p> <p>○政府により保護、管理されているイメージ。</p> <p>○里山ではなく、大きい深い森のようなイメージ。</p> <p>○国が計画的に森林を管理し、資源として活用や調査しているイメージ。</p> <p>○国有林なのか、都道府県の森なのか、市区町村の森なのか、個人の森なのか、区別がつかないから。</p>	

質問3	質問1で「国有林は身近に感じられない」とご回答された皆さまにお伺いします。 国有林にどのようなイメージをお持ちですか。
<p>○実生活に無関係なイメージ。</p> <p>○詰まるところ、近くて遠い存在。森林事業は、この国の重要な施策であるとの認識はあるものの、身近なものとしての自覚は、さほど持てない。</p> <p>○何をしているのか情報が少ない。専門職の人たちのことのように思う。</p> <p>○気軽に登れない(入れない)。</p> <p>○親しみを感じるものというより、とても国土を保持する大切な財産という認識。</p> <p>○”国”と言う文字が入っているせいか、「立ち入り禁止」的なども敷居が高いイメージ。その林に入ったら罰せられそう。</p>	

(単位：回答者数)

質問4	5月に送付させていただきました「平成30年度重点取組事項」のうち最も興味のある取組はどれですか。 ご感想をお聞かせ下さい。		
1	森林吸収源対策の推進	1	2%
2	多様な森林整備の展開	7	11%
3	シカ被害対策	17	27%
4	治山対策の推進	14	22%
5	生物多様性の保存	3	5%
6	林業の成長産業化実現に向けた民有林への支援及び木材利用の推進	1	2%
7	民有林と国有林が連携した森林整備等の推進	5	8%
8	フォレスター活動の推進	1	2%
9	林業の低コスト化の推進	3	5%
10	林産物の安定的な供給	1	2%
11	林業事業体及び森林土木関連事業体の育成・強化	1	2%
12	技術開発と普及	1	2%
13	森林環境教育の推進	1	2%
14	「日本美しの森 お薦め国有林」	3	5%
15	双方向の情報受発信	1	2%
16	伝統文化の継承への貢献	1	2%
17	大学、試験研究機関との連携の強化	2	3%
計		63	



※四捨五入により100%にはなっておりません

質問4において選ばれた取組に対する感想

- 2 ○これからは杉の植林一辺倒ではなく、適地適材で考えていく必要がある。
- 2 ○路網を整備することにより、多様な森林環境が整う。私の住む場所(瀬波川上流)にある国有林について、一刻も早い展開を願う。
- 2 ○失礼ながら、これまで、国有林を原始林と同一視しており、森林整備に向けて、様々な取組をされていることに驚き、興味を持った。
- 2 ○国有林は森林の果たす多様な機能、特に国土の保全にもっと力点を置くべきだと思った。
- 3 ○林野庁がシカの農作物被害を率先して訴え、シカを保護している法律を変えるべきと思うから。
- 3 ○シカの森林に対する被害の状況については驚いた。シカの数が適正に保たれるよう対策を強化する必要がある、充分に予算化を図ってほしい。
- 3 ○テレビでも報道されているように森林破壊が進んでいく。
- 3 ○ジビエ料理なども最近ニュースや番組で話題になってきているが、対策は県境などにまたがっていたりして、その対策がうまく連携されていないと聞くので。
- 3 ○私の住んでいる町もシカが沢山住んでいて、各家でシカよけネットなどをしている。
○シカ被害の現状を視察したり、土石流の爪跡を目の当たりにして、シカ被害防止対策の必要性和治山対策の推進の必要性を強く感じた。
特にシカ被害の有効な防止策がないことを懸念しています。国有林から追い出しても民有林等に逃げ込むことを危惧している。
- 3 ○野生動物の保護という観点から手を出せず、様々な動物が急増してきている。そして、人口減や林業の衰退、狩猟者の減少により、人里へ降りてきてトラブルを引き起こす。そのような中で、いかに動物と共生していくのか、人間と動物の住む世界をより明確に分けていくという取り組みは、双方にとって幸せをもたらすものと感じられた。
- 4 ○豪雨などによる災害を最小限に抑えるのには、治山ダムなどの重要性を理解し、とても興味を持った。
- 4 ○「山」を作る事が一番大切な事だと思います。異常気象が増え、「山」が崩壊するのは見たくない。
○昨年7月の九州北部豪雨から一年、現場では今も復旧・復興の対策が進められる中、今年も数十年に一度起こるといって未曾有の7月豪雨により、西日本の広範囲にわたって甚大な被害が発生した。これら豪雨の被害状況等を鑑みると、大規模災害からの復旧・復興、地域と連携した防災対策の推進など、治山対策の推進の重要性等を改めて強く認識した。
- 4 ○国有林の本格的な利用期を迎えているとのことで、この国有財産を有効に活用しつつ、将来我々の子孫に引き継いでいくためにも、治山対策の推進は最も大切な事業だと思う。他の取組も治山対策と並ぶ、重要な事業で興味がありますが、最近の気象の異常さに負けない治山対策の推進に当たっての創意工夫も知りたい。
- 4 ○大雨が降れば人命に甚大な被害があるので早期に対策をしてほしいから。
○西日本豪雨は甚大な被害をもたらした。家のすぐ近くでも、あちこちで小規模な山崩れが起きている。このたび初めて認識したのがため池決壊の危険性。近辺には小規模なため池が山の中にたくさんある。縄張りこだわらず、民有林とも連携して、治山対策に取り組んでもらいたい。
- 4 ○広島土砂災害から4年が経った今年、再び土砂災害により多くの命が失われたことに、怒りを感じる。この4年間、行政も私たちも、一体なにを学習してきただろうかと、口惜しくて仕方ない。点検から3年掛かる治山ダムの設置。申請や調査を含めると、もっと多くの時間が掛かるのだろう。地元民や自治会との連携というが、その道筋も分からない。要望はある。それを伝える術が分からない。
- 5 ○生物は自然界には多種多様にいると思うが、(生き物も植物も)やはり絶滅危惧種に指定されている物やそうでなくても保護しないといけない物などは保存していった欲しいと思ったから。
- 5 ○生物多様性の保存がなければ森林環境そのものに影響があると思う。レッドリストにのる動植物がないようにと思う。
- 6 ○世界一般的に使用できる環境作りがまだまだ不足していると感じる。
- 7 ○人と関わりの中での森林という面を今後もいかに持続可能に維持していくかの観点が重要に思った。生態系ネットワークの基盤である森林をどう人の活用と調和させ、うまく回していくかが重要に思った。
- 7 ○代々受け継がれてきた個人の持山をなんとか活かす手段として。
- 7 ○森林資源の利活用により地域経済の収益化を図っていくためにも民有林の利活用と国有林による林業の成長産業化の取組は必要と考える。
- 7 ○国土の65%が森林。その宝物を活用する方法はどこかにあるのでしょうかけど難しいことが山積み。
- 7 ○少子高齢化のなかで、国力を維持、向上していくためには、林業に頑張ってもらいたい。

質問4において選ばれた取組に対する感想

- 8 ○国有林・民有林共に林業に従事する人材を継続的に確保する必要がある。林業従事者の育成や若年従事者の確保について、これまで以上に取り組むべきである。今年度の取り組みに大いに期待している。
○日本の林業自体が外国の安い木材に押されてしまい、成立たなくなっている中、コストを下げて林業を少なくし少しでも収益を上げようとする姿勢が良いと思う。
- 9 林業をする若い人を増やさないと山林は荒廃する一方なので、一番大きな課題。チェーンソーや運搬機、軽トラなども支援する策が欲しいし、一般の方からも税金を少し頂くなどしてでも林業で安定した生活が出来るようにしないと若い人は3Kの林業などしない。
- 10 ○身近に感じられる林産物の供給のため。
- 11 ○成熟した森林資源を利用し林業の成長産業化を実現していくことが、重点取り組みとして、最も重要な取り組みだと思う。取り組みの推進を期待する。
- 12 ○材木として植えられている木は、スギやヒノキのイメージが強く、他の木が植えられ研究されていることについて知らなかった。自宅周辺に生えている冬に実が落ちて風情のあるセンダンを使って、植栽試験がされていることを初めて知った。芽かきによって樹形が変化の様子が面白かった。
- 13 ○私が小学校教諭として勤めていた播磨町では「森林環境教育」のフィールドとしては県立三木山森林公園(三木市)を長期活用していたが、私は箕面森林ふれあい推進センターの「森林環境教育」の実践事例がとても参考になった。
- 14 ○国有林をじっくり見たことはないが、写真で見てもその美しさに圧倒される。
- 14 ○身近な施策として十分な認識が持てる。近畿地区管内のお薦め国有林を、いつか訪れてみたい。
- 14 ○私でもわかりやすく一番身近に感じられたため。行ってみたいと思った。
- 15 ○「国有林モニター」の公募や「国有林モニター会議」の開催などを通じて、国有地に関する情報・意見・要望などの双方向性の発信が行われているのが大変いいと思う。
- 16 ○和風建築の良さが阪神・淡路大震災以来、瓦屋根も含めてなくなっている。文化を継承するということは国際的な視野に立っても必要なことである。
- 17 ○学校教育の授業で学習素材としている。奈良にも勤めたが、大人も子どもも無関心無知であった。森林モニターの研修は価値がある。

※1に対する感想は未記入

(単位：%)

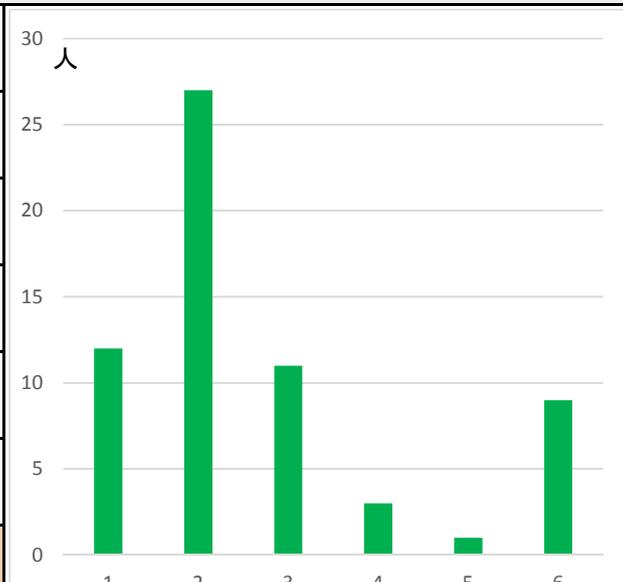
質問5	近年、人工林の森林資源の充実、合板原料としての国産材利用の増加等を背景にし、平成26年の木材自給率は、26年ぶりに30%台を回復し、平成28年度には34.8%まで6年連続して増加しました。また新建材CLT(直交集成板:繊維の方向が直角に交わるように木板を重ね合わせたパネル型木材)を利用した高層ビル建設も計画されています。 皆さまは、住居を購入する機会があればどのような家を検討されますか。次の中から一つお選び下さい		
1	国産材を使用した家	49	78%
2	外国産木材や既製品を使用した家	2	3%
3	軽量鉄骨を使用した家	6	10%
4	鉄筋コンクリートを使用した家	5	8%
5	その他	1	1%
計		63	

Category	Count	Percentage
1 (Blue)	49	78%
3 (Grey)	6	10%
4 (Yellow)	5	8%
2 (Orange)	2	3%
5 (Light Blue)	1	1%

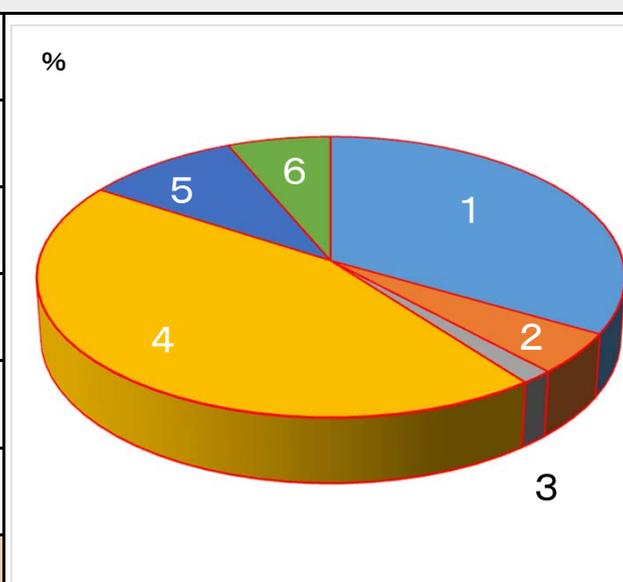
【5 その他の内容】

○安価な木材を使用した家(国産材・県産材・外国産木材はこだわらない)

(単位：回答者数)

質問6	近畿中国森林管理局では、ニホンジカによる植えた苗木の枝葉を食べる被害等の森林被害を防止するため、国有林において侵入を防ぐための防護柵の設置や地域と一体となった捕獲に取り組んでいます。ただ、捕獲したニホンジカがジビエ(狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉)として利用されているのは1割程度です。皆さまは、ジビエを利用したいと思われませんか。次の中から一つお選び下さい。			
1	おいに利用したい	12	19%	
2	一定の基準を満たし品質の安全性が保証されていれば利用したい	27	43%	
3	安定的に供給され、常設販売されていればときどき利用したい。	11	17%	
4	利用したいがどこで入手できるかわからない	3	5%	
5	ペットフードとしてなら利用したい	1	2%	
6	利用したくない	9	14%	
計		63		

(単位：%)

質問7	近年、局地的な集中豪雨や台風による山地災害が頻発し、流木による被害も発生しています。災害発生時における林野庁の対応について、どのような内容を期待されますか。次の中から一つお選び下さい。			
1	災害箇所の現地調査や災害復旧事業に向けた技術的助言	21	33%	
2	学識経験者の派遣による災害原因の究明	3	5%	
3	国有林のみの復旧作業	1	2%	
4	隣接した民有林も含めた治山事業の実施	28	44%	
5	仮設住宅への建築資材の供給	6	10%	
6	その他	4	6%	
計		63		

【6 その他の内容】

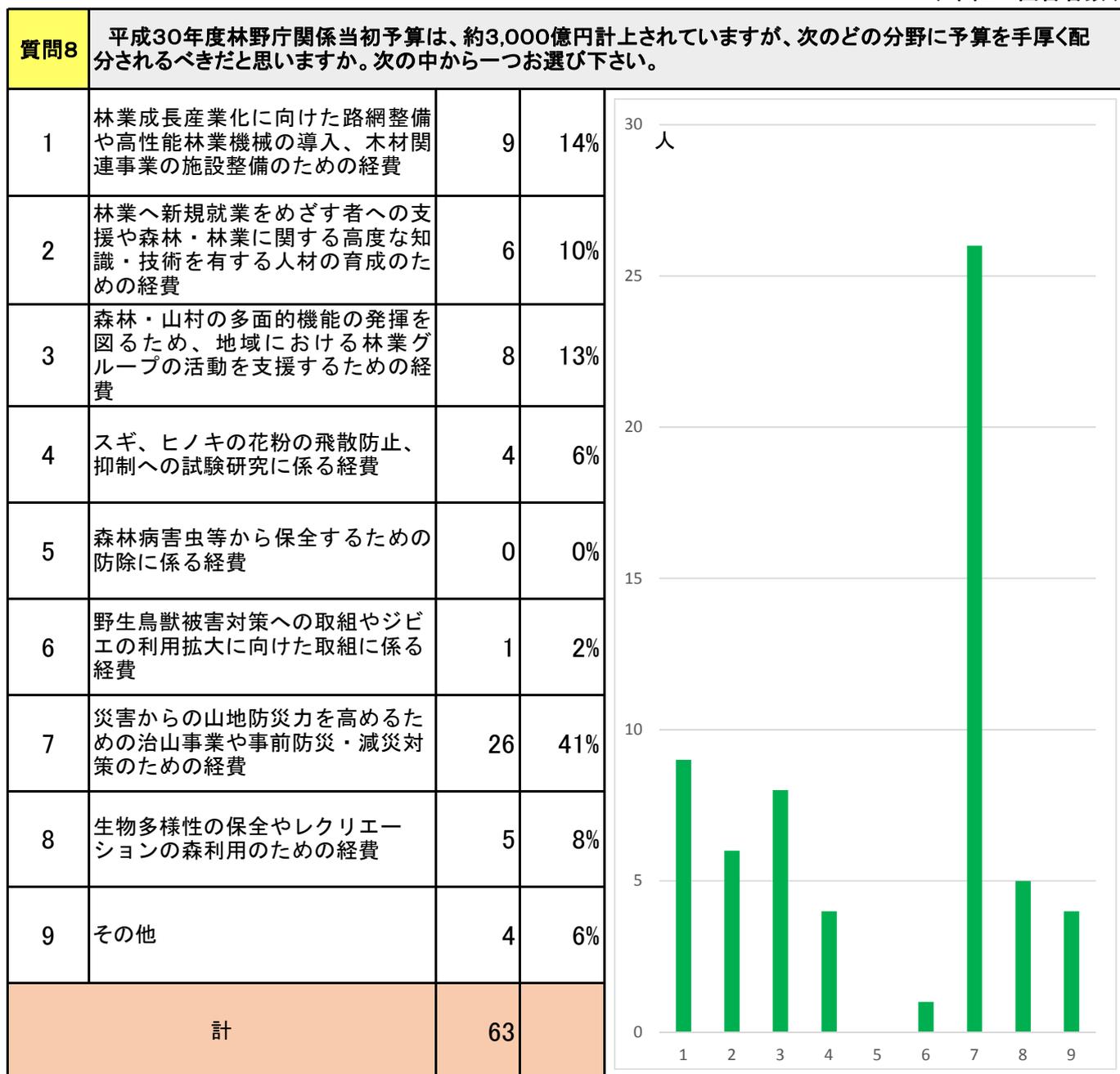
○地球温暖化防止対策

○シミュレーションと災害に対する協力体制の確立

○各省庁が一体となり裏山の土砂崩れ対策、河川の氾濫対策を早急に行い、災害の無い安心安全な生活を確保する。

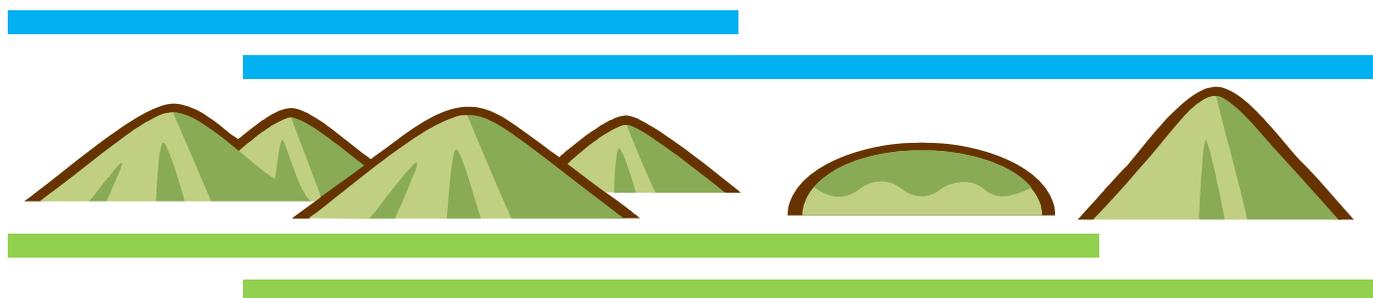
○「何故災害が起きたのか」→「原因追究」→「周辺地域や似た環境の地域を含めた再発防止策」を施して欲しい。

(単位 : 回答者数)

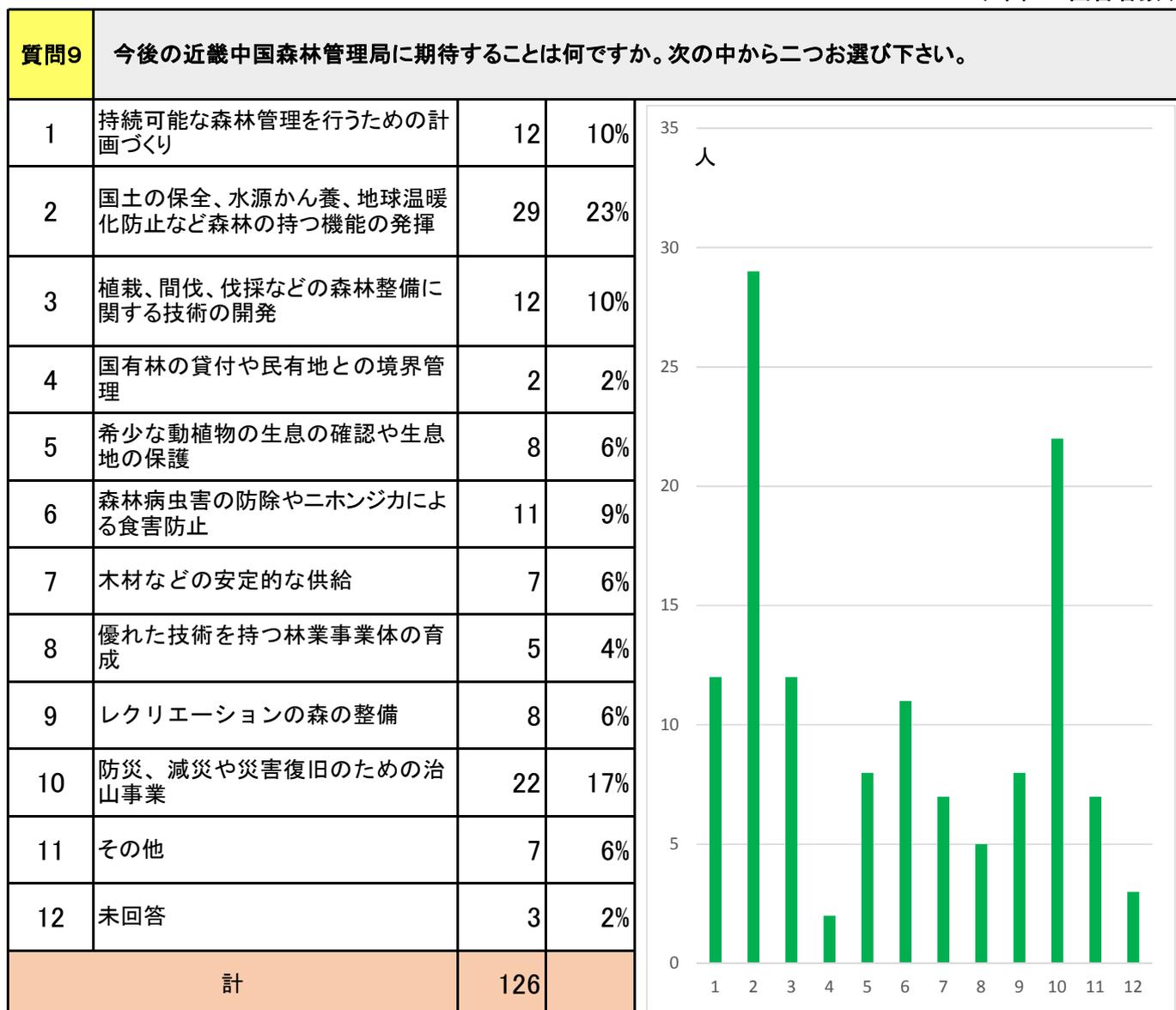


【9 その他の内容】

- 外国資本による日本における水源かん養林の買収防止
- 国有林モニターの会議の開催を増やすための経費。
- 林業就業者の所得補助・道具の支援及び自伐林業事業体へ支援



(単位：回答者数)



※複数回答のため、回答者数としています

※四捨五入により100%にはなっていません

【11 その他の内容】

- 地域と協議した中での国有林の在り方を協議し、地域との協働による森林の整備。
- 民有林と国有林との無差別化による一本化した森林行政。森林業務従事者の育成・拡大。
- 積極的な広報
- ジビエの定期的安定供給
- 大雨・豪雨災害に対する防止対策

質問10 近畿中国森林管理局における「平成30年度重点取組事項」やこれまで送付させていただいた各種冊子の中で、特にわかりづらい表現や専門用語等があればお聞かせ下さい。

12件のご意見をいただき、16件のわかりづらい用語等のお問い合わせがありました。

最初にご意見からご紹介します。

(国有林は) 広くてたいへんですが、日本の未来のため(管理を)よろしく願います。

保護林と保安林との名称

保護と保安との日本語の差異、規制・制限上など行政管理から歴史的な使い分けがなされているが、一般国民には分かり難い。国民が馴染み易い、現代の状況にあった名称に改訂しては如何か。

これからも丁寧な説明となるように努めます。

保安林は、水源のかん養、土砂の流出や崩壊の防備、生活環境の保全・形成等の特定の公共目的を達成するため、「森林法」に基づいて農林水産大臣又は都道府県知事が指定する森林で、国有林、民有林共に対象となります。

一方、保護林は国有林独自の制度で、原始的な森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展等に特に資することを目的に指定される森林です。

平成30年度重点取組事項のうち人材育成の項目で、「高度な知識、技術を有する人材を育成する」とありますが、具体的に体系化されているものがあれば一般市民にもわかるように示してほしい。

特に林業の育成は、地方都市でよく実施しているようなイメージがあるが都市に在住する者が新規で林業を職とする場合にどんな学びの場があるのか知りたい。

また、林業でも深刻化する人手不足について外国人技能実習生を活用し、「人手面」と「日本の林業の技術の海外への輸出」を含めた林業発展のための予算化を進めてほしい。

広報誌において近畿中国森林管理局で働く人について特集をしてほしい。(林業についての想いや人柄について知ることにより林野庁を身近かに感じられると思います。)

「高度な知識、技術を有する人材を育成する」とは、平成30年度予算に係る森林・林業人材育成対策のポイントとなる言葉です。森林施業プランナー育成対策事業として各種研修等を実施し、特に、主伐・再造林の施業提案の作成やタブレットなどのデジタル技術の活用方法など研修内容の充実を図ります。また、森林総合監理士等技術者活動支援事業として先進的な地域活動を全国に普及させるためのネットワーク構築、大学等と連携した技術者の実践的な継続教育を支援します。

成長産業化支援人材育成対策として現場技能者のキャリアアップに努めます。効率的な現場作業を主導することのできる現場管理責任者(フォレストリーダー)、統括現場管理責任者(フォレストマネージャー)を育成するために生産性向上、低コスト化、技能評価等に係る研修を取り入れます。

近年、各地で林業に関する教育機関を設立する動きがあり、当局管内においては、ふくい林業カレッジ、京都府立林業大学校、兵庫県立森林大学校、和歌山県農林大学校、島根県立農林大学校において、林業への就業を希望する者の育成を行っております。

なお、林野庁では、将来的には林業経営を担い得る有望な人材を支援するため、これら林業大学校等へ通う者を対象に、最大で年間150万円の給付金を支給する「緑の青年就業準備準備給付金事業」を実施しています。

外国人技能実習制度を活用して、外国人にチェンソーの使用や植林や伐採の方法等、林業に関する研修を実施している事例もあるようですが、林業でこの制度を利用して外国人を受け入れられる期間は1年間となっているため、2年以上の研修が可能な職種として林業を追加することの検討が必要となります。

広報誌において近畿中国森林管理局で働く人についての特集については、新しい企画として今後検討したいと思えます。

今回の西日本豪雨と台風12号等でかなり広域被害が出てしまっている中で「平成30年度重点取組事項」7の技術開発と普及のICTを活用した新たな技術の導入の項目と里山広葉樹の有効活用と再生等の取組が早速喫緊の状況になっているのではないかと感じています。被災地の山林等の対策と一緒にしなければならないと思うので大変ですが現場の方がたや管理局の皆さま方におかれましては、この酷暑の中で大変ではありますが何卒お体に気を付けてお取組の程何卒宜しくお願い申し上げます。

これだけ多くの発信をされているのに、他の人には届かない。モニターをして初めて感じました。知ることの大切さをです。

「用語の解説」(平成30年4月版・A4コピー)を先に頂いたので専門用語の理解に役立っています。特別な専門用語が多いので、コピーではなく小冊子にして配布いただくと嬉しいです。

(専門用語が)世の中の人がわかるように、特に若者への教育に力を注いでいただければと思います。

「一貫作業システム」は省力化を助ける有効な事業だと思いますが、伐採の後植え付けまでに、山林の様子を見て、地滑りが生じないように地盤強化がなされるのでしょうか。それとも他の方法が取られたりするのでしょうか。

一貫作業システムを活用する場合、伐採後すぐに植栽を行うため特に地盤強化は行っていません。

かみ砕いた内容となっているのでわかりづらい表現等はなく読みやすかったです。

用語の解説は、イメージ画が役に立ち、分かりやすい。50音順なのだが、もう一つ、カテゴリー別に仕分けしてあるものと、尚良いと感じる。例えば、堰堤とダムの違いは、並べて書いてないと分からない。活動、防災、取組、伐採の種類、鳥獣対策、等に分けられての掲載だと、素人には、理解しやすいと感じる。フォワーダについては、玉伐りもグラップルも分からなかった。内容としては、官公庁の冊子なので、仕方ないとはいえ、漢字表記が多く、パッと見、げんなりしてしまう。写真や画が多いことは、読み手の理解を助けるので嬉しい。紙面の統一性もあり、工夫が感じられる。

フォワーダ: 造材(丸太に加工)した材をトラック運搬が可能な場所まで運ぶ林内運搬車のこと。

玉伐り(たまざり): 立木の伐倒後、枝払いをし、木の特徴に合わせた規定の寸法に切断して素材丸太にすること。(切断された丸太を玉という)

グラップル: 伐採した木を造材(丸太に加工)できる場所まで引っ張り込む、又は丸太をトラックに積み込む重機のこと。

素人にとっては専門用語が多いですが林野には注釈がついていますし、用語辞典も配布されている。ネットも活用しているので問題はないと感じます。

平成30年度重点取組事項について、4-2治山対策の推進については人命にかかわる事項なので大事な事ですが総花的に記述と感じます。国土の70%が山地でこれだけの人口がひしめき合う事から山地やその部分を切り崩し住宅を建設し、広島県のように脆い土壌であることから土砂災害は起こりうる。日本全国で治山対策といっても人・物・金を考えても全部をカバーなど無理な話と感じますが。

わかりづらい表現や専門用語等はないものと思います。写真、地図やデータも多く、誰が読んでも見てもわかりやすいと思います。

国有林は知らなければ、かなりの山の奥か国立公園の中かと思う方も多いかもしれませんが、都市部のすぐ近くにもありますし、有名な観光地にもあります。いろいろな広報活動は必要なことと思います。

ここからはわからなかった用語にお答えします。

1 ICT

Information(情報) and Communicatinos(通信) Technology(技術)の略

情報通信技術のことで、ITの「情報技術」に「コミュニケーション(通信)」性を加えて表現された言葉です。

2 森林ESD

Education for Sustainable Development の略

「持続可能な開発のための教育」を意味し、森林・林業の役割や木材利用の意義の理解と関心を高めるための活動を表しています。

3 森林ESDの英語表記

Education for Sustainable Development の略

Education (教育、育成)、Sustainable(持続できる、耐える)、Development(発達、発育)

4 育成単層林から多様な森林への誘導イメージ

人工的に植えたスギやヒノキ等の森林について、急傾斜地や林地生産力が低いなどの立地条件に応じて、樹木を部分的に伐採し、その後に植林や自然に落ちた種子を成長させるなどにより、年齢や高さ、種類等の異なる樹木から構成される森林を造っていくということです。

5 フィールド

「場所」や「領域」を意味し、ここでは国有林の敷地を表しています。

6 マテリアル

material 材料、素材を意味します。

7 「管理局」、「管理署」、「管理所」の違い

森林管理局は、北海道から九州まで全国に7つ配置されています。管轄エリアとしては、一道から複数都府県を管轄エリアとしており、国有林を直接管理しているのではなく、森林管理署や森林管理事務所を指導する立場の組織です。

また、国有林内の森林資源の循環利用を行うため、森林計画を策定するところでもあります。

森林管理署及び森林管理事務所は、森林管理局の下部組織であり、各都道府県に一つないし、数署・所存在しており、森林管理局で策定した森林計画に基づき、直接、国有林を管理、運営を行っている組織です。

なお、森林管理署と森林管理事務所の違いは、管轄する国有林の面積の違いから、名称を区別しているだけで、仕事の内容の違いはありません。

8 大陸プレート、海洋プレート

大陸プレート＝地球表面を覆うプレートのうち、その上部が大陸であるものです。

海洋プレート＝地球表面を覆うプレートのうち、海洋底からなるものです。平均密度が高く強固なため、海溝において大陸プレートの下に沈み込む特徴があります。

9 文科省指定のスーパープロフェッショナルハイスクール

近年の科学技術の進展等に伴い産業界に必要な専門知識や技術は高度化し、従来の産業分類を超えた複合的な産業が発展しています。

これに対応するため、専門高校等において、大学・研究機関・企業等との連携の強化等により、社会の変化や産業の動向等に対応した、高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成を図ることを目的に文部科学省が指定する学校のことです。

10 ひき板

鋸(のこぎり)などで挽いて切った木の板のこと。1センチ厚以上のものが中心で、突板(つきいた＝木材を0.2～0.6mmに薄くスライスした板材)よりも厚めの木材のことです。集成材や積層材などにも使われます。

11 GPSテレメトリー調査

global positioning system の略。地球上の現在位置を、人工衛星からの電波で測り知る装置をシカに設置し、テレメーター(遠隔計測装置)を使って、遠隔地の測定結果をコントロールセンターに送信することで、その行動の内容を分析する調査です。

12 ヘイクキューブえさ

干し草を角形に整形固形化したもの。容積が小さくなり、貯蔵、運搬、家畜への給与などの取扱いが容易になるほか、飼料の損失も減少する利点があるそうです。

13 マルチキャビティコンテナ

複数の育成孔がある栽培容器で、植物の苗などを栽培します。

14 Mスターコンテナ

市販の波板とポットトレイを組み合わせた栽培容器です。宮崎県林業技術センターが開発したそうです。

15 ロングリーチグラブプル

林業で使用する木材荷役機械。アーム部分が長いことが特徴です。

16 バリュートーチエーン

事業活動を機能ごとに分類し、どの部分(機能)で付加価値が生み出されているか、競合と比較してどの部分に強み・弱みがあるかを分析し、事業戦略の有効性や改善の方向を探ることです。